

第29回 放送番組審議会議事録

2021年9月

株式会社シーエス・ワンテン

株式会社テレビ朝日

1. 開催年月日 2021年9月

2. 開催場所 書面開催

3. 委員の参加

委員総数 9名 参加 9名

出席委員の氏名

委員長	池井 優	(慶応義塾大学 名誉教授)
委員	黒鉄 ヒロシ	(漫画家)
委員	高木 美也子	(東京通信大学 人間福祉学部教授)
委員	戸張 捷	(株式会社ランダムアソシエイツ 代表取締役)
委員	丹羽 美之	(東京大学大学院 情報学環教授)
委員	藤田 興彦	(児童育成協会 参事)
委員	前田 純弘	(昭和女子大学グローバルビジネス学部 ビジネスデザイン学科非常勤講師)
委員	元村 直樹	(明治大学法学部兼任講師)
委員	四本 裕子	(東京大学大学院 総合文化研究科准教授)

放送事業者側出席者氏名

株式会社シーエス・ワンテン

代表取締役社長

福田 泉

業務推進本部長

渡辺 慎一

株式会社テレビ朝日

コンテンツ編成局総合編成部 部長

榊原 誠志

コンテンツ編成局総合編成部 担当部長

吉川 大祐

コンテンツ編成局総合編成部

小宮 立千

ビジネスプロデュース局 CS 事業部 部長

三平 裕之

ビジネスプロデュース局 CS 事業部 担当部長

谷 俊之

4. 議題

「テレ朝チャンネル1」、「テレ朝チャンネル2」の番組について

◆テレ朝チャンネル1番組審議

『絶対BLになる世界 vs 絶対BLになりたくない男』

<番組内容>

オリジナルでドラマを制作し権利を自社で保有、CS放送を起点にネット配信やDVDなど360度で展開できるコンテンツで持続的なビジネスにすることを目標に、2019年のWEBまんが総選挙で4位だった原作コミックを、まだ1巻しか発売されていないタイミングで最速ドラマ化決定しました。

登場人物がみんなBLになってしまう世界に生きる主人公モブ。自分だけはBがLするのを回避しようと奮闘しますが、高校生の弟も、大学の友人も、次から次へと取り込まれていってしまいます。続々立ち上がってくるBLフラグをモブは回避しつつけることができるのか？出会いのシチュエーションあるある、飲み会でのあるある、BL漫画家も登場するなどショートストーリーを重ねて、インターネット配信にしたときにも見やすい構成を意識しました。

今後も、CS放送らしい、マニアックなコアファン層に向けたコンテンツ制作にチャレンジして、360度に展開していける工夫をしまります。

<委員意見>

- ・ちょっとしか出演していない役者さんも、自身の役をどう演じるかを真剣に考えている。
- ・マニアックなマンガからのブレイクでパワーはすごい。まさに、CSらしい番組。
- ・BLを題材のドラマの人気の、時宜を得た好企画である。
- ・こうしたオリジナルドラマの制作は今後も積極的に続けてほしい。
- ・BLのあるあるネタにツッコミを入れながら楽しむというコメディタッチが新しい。
- ・恋愛感情をきめ細やかに描くドラマとして観ると、やや物足りなさを感じた。
- ・あらためてCS番組の幅の広さ（内容、視聴者）を感じた。
- ・多数のイケメン俳優をキャスティングし、ここまで作り込めるは、やはりキー局ならではの。
- ・このタイトルと内容を、人権意識の高い海外諸国で放送できるだろうか？
- ・BLというコアなファン層のものを扱う際には、より幅広い視聴者層を意識した議論が必要。

◆テレ朝チャンネル2 番組審議

『神田伯山の”真”日本プロレス #3』

<番組内容>

“最もチケットの取れない講談師”の神田伯山と、プロレスに魅せられた実況アナウンサーの清野茂樹。2人がテレビ朝日に残された貴重な映像を観ながら、プロレスの歴史をマニアックに語り尽くす番組。月1で、今年の2月から8月までの全7回放送致しました。

テレビ朝日のCSチャンネルとしての価値を活かすべく

- ①テレビ朝日にある豊富なアーカイブスを活かす番組。
- ②CSユーザーを満足させるべく、とことんマニアックに深掘りする番組。
- ③改めてプロレスの価値を高めるべく、昔の新日本プロレスと今の新日本プロレスを繋ぐ架け橋となる番組。

以上の3点を意識しながら企画しました。

当初は、伯山さんがプロレス生中継の解説席に座ることを目標に、新日本プロレスを学ぶスタンスでスタートしました。

ところが、最近のプロレスから少し離れてしまっているとはいえ、昔からプロレスファンだった伯山さんの切り込み方に、清野アナの圧倒的な知識量に加わることで、二人の掛け合い、目の付け所がとにかく面白い。歴史を振り返り、懐かしむところもあれば、新たな見方を気づか

せてくれました。改めて「プロレスっていいよね。」が伝わる番組になっていれば幸いです。

<委員意見>

- ・プロレスファンならずとも大変に面白く観られる構成で、神田伯山氏と清野アナの掛け合いも肩に力入らず、真面目にして不真面目、不真面目にして真面目—とシニカルにして、エンターテインメント。
- ・神田伯山さんと清野茂樹さんは二人とも、日本のプロレスの知識が半端ではない。
- ・2人の軽快かつマニアックなトークに導かれ、熱心なプロレスファンではない私でも、とても楽しめた。これ以外の放送回も観たくなった。
- ・アーカイブ活用のお手本のような番組である。
- ・プロレス愛にあふれた2人の掛け合いで昭和プロレスを興味深く見る事ができた。
- ・「猪木 vs アリ」は、「単なる凡戦」という記憶しかなかった。
- ・プロレスやアントニオ猪木氏にまつわる知識はなかったが、新日本プロレスの歴史の断片を興味深く見る事ができた。プロレスに関する質の高い教養番組のよう。
- ・伯山さんの「プロレス講談」が聞きたかった。

5. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた2021年9月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めています。

6. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

2021年10月以降に、ホームページに審議会概要を掲載ともに、放送番組としても公表する予定です。

7. その他の参考事項

次回の放送番組審議会は2022年3月に開催予定。

以上